Vol．4　　（令和５年８月）
発行：宇治市乳幼児教育・保育支援センター準備室
アドレス：nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp

宇治市乳幼児教育・保育推進協議会

保幼こ小連携専門部会通信（第２号）

令和５年８月９日（水）に、第２回宇治市乳幼児教育・保育推進協議会保幼こ小連携専門部会を開催いたしました。
部会の様子をお知らせします。

第２回の主な内容

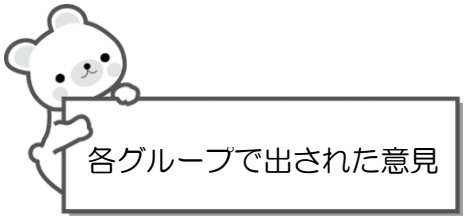
１．第１回の課題の振り返り
２．課題の対応策の検討
　　（グループワーク）

<u>専門部会とは</u>

「保幼こ小連携」「発達・子育ちの支援」の推進にあたり、現状の把握、課題抽出、対応策の検討、研究・研修の企画実施について、乳幼児教育・保育の実務をよく知る職員の意見を反映できる仕組みとするために設置したもの。

〇課題についての対応策の検討

　課題についての対応策を、部会員を２グループに分けグループワークの手法により意見を出し合っていただきました。



Ａグループ

【連携園を市が決める】

（１）連携園・学校が決まっていると連携しやすい

（２）連携をするペアが決まっていると計画しやすい

（３）「小学校区にある就学前施設と連携をする」と決めてしまう

（４）プラン案として市に小学校と就学前施設のペアを割り振りしてもらう

【互いの参観の機会を増やす】

（１）相互に参観する機会があれば様子がよく分かる

（２）小学校の授業を保幼こ小の参観以外に見学する機会を作るといいのでは

（３）教室だけでなく生活科等の教室以外の場で活動している場面も参観させてほしい

（４）小学校１年生の担任の先生が就学前施設に参観に行く機会を作る

（５）授業参観日に就学前施設が参観するのはどうか

（６）小学校の夏休みの研修日に保育施設へ半日見学に行くことを位置付ける

（７）交流授業でなくても小学校訪問に就学前施設の先生が引率して連れて行く機会を作る

【子どもの実態を踏まえて交流活動の事前の打合せをする】

（１）砂場の活用・遊び方の違い（小学校と就学前施設）

（２）事前の打合せの重要性（交流活動）

（３）舞鶴の交流活動の例（事前の打合せ・事後の振り返り）

（４）１年生に学校の案内をしてもらうのはどうか

（５）散歩から始める

Bグループ

【職員同士の交流の回数を増やす】
(1)就学前施設と小学校の先生同士の交流
(2)普通に学校の先生と話ができる場
(3)小学校の先生と就学前施設の先生がもっと話し合える機会があればいい
(4)今知っている安心できる就学前施設の先生と一緒に小学校に行って小学校の先生の話を聞く
(5)小学校の先生が就学前施設に来られる機会がもっとあると、見て感じてもらえる

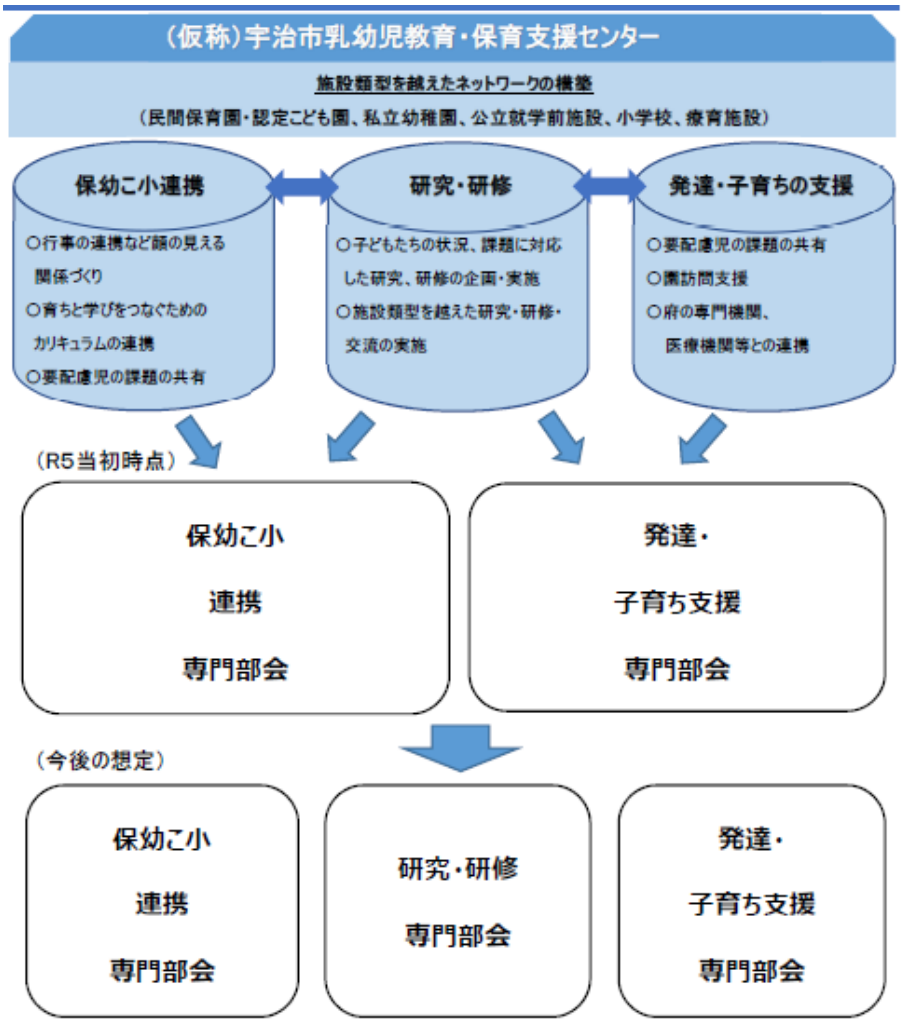
【子どもの気持ちに耳を傾けて検討する】
(1)大人の考えたものは子どもは興味が湧かない
(2)子どもの話を聞いて作ることが大切
(3)小学生の入学当初の生の不安の声も聞いてみたい
(4)我が学校に迎える児童の気持ちが大切
(5)小学校入学前までにつけておいてほしい力を事前に教えていただきたい

【「非認知能力」をキーワードとした連携】
(1)普通に学校で遊べる場がある
(2)小学校では学校教育で非認知能力を育てようとするが就学前施設との差が大きい
(3)子どもは遊びを通して非認知能力を育てる
(4)遊びの引き出しは子どもの方がある
(5)生活科の学習が遊びの要素も入りやすく学習に取り組みやすいのではないか

【具体的手法】
(1)小学校へは健診と半日入学しかないのでもっと顔の見える機会があれば
(2)小学校が馴染みのある、普段から行ける場所になればいい
(3)小学生からお手紙が来るなどの交流（ワクワク感）
(4)できる連携を校区でモデルでやってみる
(5)集団登校の練習（入学までに体験しておく）
(6)職場体験で中学生が来る

（仮称）乳幼児教育・保育支援センターとは

施設類型を越えて全市的に連携・協働し、各施設での取組を共有することにより、これまで以上に、保幼こ小連携の取組推進や人材育成など、教育・保育の質の向上を図ることが可能となると考え、その仕組みづくりとして（仮称）乳幼児教育・保育支援センターを設置する。

宇治市乳幼児教育・保育推進協議会とは

すべての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築すべく、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有し、連携、協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図るとともに、各施設間、家庭・地域の教育・保育力の確保・向上を支援するため、宇治市乳幼児教育・保育推進協議会を設置する。